

## 港区立本村小学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で差異はあるものの、「書くこと」、「言葉についての知識理解技能」について、課題がある学年が多い。</li> <li>・漢字を読むことはできていても、漢字を書く技能の定着率が低い。</li> <li>・目的をもつて的確に話を聞くことができていない。継続指導をして、力を伸ばしていく必要がある。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動を通して、表現の仕方や工夫に着目させる。目的に応じて、自分の考えを書いたり編集したりすることを大切にする。簡単な文章構成から文型・話型の基本を教えることで、自分の考えを表せるようにしていく。考えを深められるように、友達と意見を交流する場を多く取り入れ読み手を意識した文章を書く際の参考にしていく。</li> <li>・目的や意図に応じて、的確に話す能力や相手の意図をつかみながら聞く能力を育てるために、具体的な相手や目的を設定し、聞いたり話したりする学習活動を多く取り入れる。</li> <li>・音読については、姿勢や口の開け方、強弱などを指導していく。</li> <li>・読む相手や書く目的を具体的に設定し、伝えたい事柄の中心を明確にする構成を工夫できるように指導し学んだことを活用できる力を身に付けていく。</li> <li>・朝読書や読書の時間を増やし、読書（漫画を除く）を励行し、本に没頭できる態度を育てる。</li> <li>・ひらがなや漢字の習熟度に個人差がある。ミニテスト等を各クラスで積極的に行い、結果により個人指導を続けていく。</li> </ul>
社会	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心意欲はあっても、知識理解の定着に差がある。</li> <li>・資料から読み取った事柄や事象に対して、自分の考えをもつことができない児童がいる。</li> <li>・児童自らの課題になっておらず、意欲が低くなってしまいう児童は、知識理解の定着が低い。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や学んだ事柄に関して、実生活に結びつける活動を取り入れることで、知識の定着をはかる。</li> <li>・資料から読み取った事柄や事象、それぞれの考えたことや知識から、考察したり、まとめたりする活動を設定することで、社会的な思考・判断・表現する力を育てていく。</li> <li>・身近な課題や作業を伴う体験的活動を取り入れ、協働的な学びを実践していく。</li> <li>・社会に関する資料から、児童自ら課題を見付ける授業の展開を取り入れる。</li> </ul>
算数	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量関係で知識理解の定着が不十分。</li> <li>・いくつかの解き方を考えられる一方で、基礎基本の力と正確さが足りない。</li> <li>・文章問題の読み取りに苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中から算数的活動を積極的に取り入れ、量感覚や数感覚を磨く。</li> <li>・既習事項等を使い、「見通し」をもって問題解決型の学習をして、活用できる力を付ける。</li> <li>・日常の言語、式、表、図、グラフなど様々な表現方法を使い、自分の考えを明瞭・的確・簡潔に説明する力を育てる。（友達同士の意見交換、学級全体での発表の場、検討の場を増やす）</li> <li>・少人数・T Tの指導の充実を図り、基本的な知識・技能等の、習熟の差を縮めることを目指す。</li> </ul>
理科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心意欲は高いが、推論したり考察したりする力が弱い。</li> <li>・自分の考えを表現する際に、根拠に基づいた筋道だてた説明ができない。</li> <li>・実験観察器具の使い方などの、技能が定着していない。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決学習の流れを身に付けさせることで、見通しをもって実験や観察を行えるようにする。また、それぞれの実験や観察の視点を明確に示し、個別の支援を行うことで、一人一人がねらいを明確にして観察や実験を正しい方法で行えるようにする。</li> <li>・結果から結論を導き出す話し合い活動を充実させていくことで、科学的思考力・表現力の育成を図る。</li> <li>・ノート指導を充実させることで、結果や考察を適切な分かりやすく言葉で表現できるようにしていく。</li> <li>・観察や実験の結果と、日常生活の事象との比較を意識させ、結びつけて考えることができるようにすることで、知識・理解としてしっかりと定着できるようにする。</li> <li>・言語活動を意図的、計画的に取り入れることで、複数の考えやデータから自分の考えを深め、筋道を立て自分の考えを表現する力を伸ばしていく。</li> </ul>
生活	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心意欲は高い。</li> <li>・植物を育てることで、自然への関心を高め、体験的な学習の継続を行うことができています。</li> <li>・自然や地域とのつながりを感じさせる場面を増やしていく必要がある。</li> <li>・気付きの表現方法を伸ばす学習を行っていく必要がある。</li> </ul>

	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な見方・考え方の基礎を養う視点から、自然の不思議さやおもしろさを実感する学習活動を取り入れる。</li> <li>・自然の素晴らしさ、生命の尊さを実感するために、身近な動物や植物と関わる体験的な学習を重視する。</li> <li>・自分たちの生活は多くの人の助けによって支えられていることを様々な場面で理解させるとともに、集団の中で自分ができることを考え、活動・体験できるようにする。他学年との交流を通して、他者と自分との関係に気付かせるようにする。</li> <li>・具体的に絵や文で表現する活動や体験を振り返る指導を行い、活動や体験を通して得られた気付きの質を高めていく。</li> <li>・気付きをもとに考えることや、気付きの質を高める観点から、活動や体験を一層充実するために町たんけんなどの地域の様子に注目させた学習活動を重視する。</li> </ul>
音楽	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中力と聴く姿勢が継続しない児童がいる。</li> <li>・響く声の出し方や、器楽の指使いなど、表現に生かすための技能が身につけていない。</li> <li>・音楽的表現活動の経験が少ない児童に、具体的な手立てをとる必要がある。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱曲は声域や各学年の実態に合ったものを選曲する。</li> <li>・歌唱、器楽ともに、基礎基本を定着させる。(発声練習や運指を丁寧に行う)</li> <li>・鑑賞活動の中で「よく聴く」ことを意識させ、言葉を用いて音楽を具体化し、表現力につなげていく。</li> <li>・常時活動の中に、リズム読みや音階を読む活動を取り入れ、楽譜に抵抗なく演奏を楽しめるようにする。</li> <li>・児童が表現の工夫(強弱の付け方、テンポの変化など)を考える時間を設け、さまざまな音楽表現の経験を積み重ねる。</li> <li>・合唱発表会に向けて、学年で協力し合い一つのものを作り上げていく喜びを味わわせ、その大切さを学ばせる。</li> </ul>
図工	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土粘土や木材など、知ってはいるが、じっくり触るなど材料として扱う経験が乏しい。</li> <li>・かなづち、のこぎりなど、安全で正確な使用方法が身につけていない。</li> <li>・制作の初期段階でのつまづきがある児童の支援が必要。</li> <li>・作品鑑賞において、作品の良さや美しさなどを表現する活動は、書くことや考えることが苦手な児童が参加に消極的な傾向がある。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの素材や表現技法に挑戦する機会を設定し、自分の身の回りに造形的な面白さ、美しさに興味をもたせ、それを作品に生かし表現を深められるようにする。</li> <li>・授業の導入時に、基礎的な道具の使い方は、正しく習得させ、経験を積み重ねることで手や指先の巧緻性を高める指導をし、丁寧に仕上げる態度を定着させる。</li> <li>・毎授業ごとに「めあて」「授業のキーワード」「授業の流れ」を板書などして視覚的に理解を促していく。</li> <li>・共同して表現する活動を通して、様々な発想やアイデアや表し方があることにお互い気付き、それを認め合う活動を通して、表現や鑑賞の能力を互いに高め合うようにしていく。</li> <li>・友達の作品を鑑賞し、感じたことなどを発表したり、鑑賞カード等記入したりすることで言語表現力を高める。</li> </ul>
体育	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動がしっかり身につけていない児童がいる。</li> <li>・児童が自己評価と課題設定をする力が十分に身につけていない。</li> <li>・投動作・器械運動・腕支持感覚などの基礎的な技能や運動感覚が身につけていない児童が多い。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動領域では、体の基本的な動きを総合的に身に付けることを大切な視点にもち、めあてを明確にした意図的、計画的に単元の内容を設定し、指導内容の明確化・体系化を図る。低学年では運動遊びの中で、逆さ、腕支持、回転などの動きを経験させる。高学年では低学年で身に付けた動きを定着させる。基礎的な運動感覚を高めることが、応用的な動きを体得する手立てであることを理解させ、中学校の指導内容につながる系統性のある指導を行う。</li> <li>・体づくり運動領域や、器械運動領域、投動作運動では、コーディネーショントレーニングの実践を取り入れ、目標とする運動・行動を確実に発揮できる「動ける力」を習得できるように、身体のみならず、脳に刺激を与える運動をする指導を行う。</li> <li>・各運動領域における持久力を身に付けさせるために、同じ動きを繰り返し行うこと意欲的に取り組むことができるように、発達段階に応じて指導内容を工夫する。</li> <li>・児童が技や動きの達成をするために、発達段階に応じた自己評価活動ができるようにする。そのために、学習資料の活用の仕方、運動の場の工夫の仕方、友達とのグループ学習の進め方等、学び方を身に付ける授業を展開する。</li> <li>・保健は、児童が自分自身の体のことや健康の大切さを認識し、保健学習における課題を生活と照らし合わせて考えられるようにするため、実践的に理解を図る学習活動を取り入れる。</li> <li>・児童が自分の体の動かし方を見て、課題設定ができるよう、タブレットを用いた授業展開をする。</li> </ul>

家庭科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かな継続作業を面倒に感じて、家庭生活と結び付けられない児童がいる。</li> <li>・実習的活動は意欲関心が高いが、知識理解の部分が弱い。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的、体験的な活動を通して基礎的な知識・技能を習得させ、身の回りのことで、自分でできることは自分で行うように意識を高める。</li> <li>・家庭との連携を図り、時には授業へのサポートも依頼し、ミシンなどの技能的な内容については学年で協力して、より安全に確実に、児童が身に付けられるようにし、それを日常生活に活用できるようにする。</li> <li>・生活の中で使われる道具や言葉について、実感を伴って理解させることにより、生活をよりよくする方法を考えたり説明したりする学習活動が充実するよう配慮する。</li> </ul>
総合的な学習の時間	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定の力が弱い。</li> <li>・近隣校や公共施設との体験的な学習を、効率的な活用が不十分。</li> <li>・他教科との関連が少ない。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら課題を見付け、設定する機会を多くもつことで、課題設定能力を身に付けさせ、よりよく問題を解決する資質や能力及び創造的に取り組む態度を育成すると共に、プレゼンテーション等の活動を取り入れ、表現力の育成を図る。</li> <li>・教科の枠を超えた横断的な学習、探究的な学習を行うため、日常生活の関わりを重視して目標や内容を設定し地域の伝統や文化を尊重する精神を育てる。</li> <li>・近隣校や公共施設等との連携による体験的な学習や科学的な知識を活用したものづくりや探究的活動を行い、地域の一員としての自覚をもたせる。</li> </ul>
国際科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動と活動の切り替えができていない場面がある。</li> <li>・歌やテンポの良いリズムが無く、楽しい雰囲気欠ける。</li> <li>・英語の聞き取りに差が大きく、聞き取れない児童の参加意欲が落ちている。</li> <li>・児童を集中させることができていない。</li> <li>・日本と外国の文化の違いからか、学年が上がるにつれ、NTと児童とのコミュニケーションが難しくなる。</li> </ul>
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時に「Today's Goal」を提示し、本時の活動が児童に分かるようにする。</li> <li>・全学年、導入で簡単な歌を取り入れ、楽しくノリの良い活動の雰囲気づくりを行う。</li> <li>・1年生～4年生までは、チャンツを取り入れ、リズムと適度なスピード感の中で語彙力や学習したフレーズを獲得できるようにする。</li> <li>・1年生～6年生まで、フォニックスを意識した活動を取り入れる。</li> <li>・担任が積極的に授業に参加する機会をもつ。(Today's Goalの提示、モデルを示す、NTに、子供が分からなさそうな表情をしていたら、担任からNTに質問を投げかける。</li> </ul>